

# 昭和肥料ニュース FAX版



ホームページにも来てね！ HPアドレス <https://showa-f.co.jp>

Vol. 033

## みどりの食料システム戦略

2050年に農林水産業のCO<sub>2</sub>排出量実質ゼロを目指す。この目標の為に政府・学会は様々な策を打ち出し、それが今後加速されると予想されます。

現状は、作物の収量・品質の影響、生産コストへの負担影響、作業面での実行性など 環境と収益性の両立が難しい現実が指摘されています。また、南北に長く地域性に富む日本の風土では単一の施作では対応策としては不十分（実行性に乏しい）なケースもあり生産現場の混乱が心配です。

例：水田メタン排出削減策として「中干し期間の延長」は各圃場の地力、水持ち程度によっては 実行すると品質、収量の悪化へつながる。

→根の断裂、深根の未確保（土づくり不足）では後半凋落し、高温年では乳白米が激増する。土づくり済みが前提の施作と言えます。

例：「秋耕」は東北以北、降雪地では作業時間が取りにくい、重粘土質の圃場では春からの作業性の悪化等、場所を選ぶことに注意。

→秋耕は残渣有機物の地力化、ガスわき軽減に貢献する素晴らしい技術ですが、地域や土壌特性を考え適所で行うべき。地域に根差した指導が必要となります。（地域の篤農家の技術を参考にすべし）

## 【環境と生産性の両立には、やはり土づくり！】

肥料メーカーとしては「CO<sub>2</sub>を削減しつつ、品質もしっかり確保」が求められるところです。弊社も厳しい環境基準をクリアするため、各工場設備の導入・更新を行っております。創業当初からの品質重視に加え、環境負荷軽減も今後追及していく方針です。

さて、肥料の使用面での「効果的な環境配慮」としては

- ①作物観察第一、手間を惜しまない第二、土壌診断第三 で無駄削減
- ②機械作業を減らすベストマッチ肥料を選ぶ（1材で多要素のジャスト施用）
- ③肥料効果を引き出す「土づくり」を行う（詳しくはバックナンバーを参照）

上記の基本を踏まえつつ、適切に減肥するべきと思います。

特に肥料価格高騰の現状では③の「土づくり」に妥協せず取り組み、作物の肥料吸収力を高めることが、結局は環境にも生産コストにもプラスになると思います。そのための一つの道具として弊社製品をお役立ていただけることを期待しております。



水稻・豆・麦の輪作体系にピッタリ使える新製品を現在開発中！！  
今後作付けが増える（かも）豆類・麦類への提案にご期待下さい！  
N以外の各成分をバランス良く含有し、これ一材と堆肥や緑肥との併用をすることで、土づくりをカバーし、生産力を維持・増強できます。